

行 役 所 場
村 刷 刷 社
発 東 印 刷 株 式 有 限 公 司
瀧 北 洋 印 刷 株 式 有 限 公 司



団 結 と 展 展 を 象 徴 し た
瀧 東 村 の 村 章

今年 の 村 政

村 長 小 泉 充

四月から新年度に入りました。今年 の 村 政 は ど の よ う な 事 に 主 眼 を 於 け る の か、其 の 主 なる も の を 申 述 べ て み た い と 思 い ま す。

◎ 農 業 振 興 に つ い て ◎

本 村 は 米 作 り の 単 作 地 帯 で す の で な ん と 言 っ て も 米 作 り に ウ ェ イ ト を お か な け れ ば な り ま せ ン。こ の ち ょ う が 御 承 知 の 如 く、食 糧 会 計 の 赤 字、余 剰 米 の 問 題、加 え て 自 主 流 通 米 制 度 の 発 定 等、非 常 に 敏 しい 諸 情 勢 の 中 に あ る わ け で す。然 し 瀧 東 村 の 地 理 的 条 件 か ら 上 じ 今 等 の 米 を 充 分 に 踏 け ず に 稲 作 技 術 の 一 層 の 向 上 を 期 し 経 済 性 の 有 る 農 業 経 営 を よ り 一 層 進 め て ゆ か な け れ ば な り ま せ ン。こ れ が 為 め に 長 期 的 展 望 に た ち 乍 ら 土 地 基 盤 整 備 の 促 進、こ れ に 附 随 し て 地 盤 沈 下 に よ る 機 能 低 下 を 来 し た 用 排 水 の 早 期 復 旧、近 代 的 機 械 化 農 業 の 推 進 を 期 さ な け れ ば な り ま せ ン。

特 に 機 械 化 の た め の 過 剩 投 資 が 逆 に 農 業 経 営 を 圧 迫 し 機 械 化 貧 乏 と い う 悪 現 象 を 来 し て お る 事 は 誰 し も 承 知 し な が ら こ の 点 の 脱 却 が

出 来 ない 事 は 非 常 に 遺憾 な こ と で あ り ま す。米 価 の 値 上 が り が 多 く の 期 待 が も て ない 今 日、村 も 関 係 機 関 も 出 来 だ け 協 業 化 を 指 導 し、個 人 の 過 剩 投 資 を 抑 制 す る 方 向 に 進 ま な け れ ば な り 不 思 い ま す。こ れ が 為 め に 国、県 の 補 助、融 資 制 度 を も っ と 利 用 す べ き で あ る と 思 い ま す。勿 論 こ れ ら の 制 度 の 前 提 と な る の は 協 業 で あ り ま す。本 年 度 も 既 に 国 見、南 地 区 が 高 度 集 団 救 済 事 業 の 内 定 が な さ れ 大 型 ト ラ ク タ ー 購 入 等 に 関 し て は 五 割 補 助 の 適 用 を 受 け る 事 に な っ て お り ま す。

又 農 業 構 造 改 善 事 業 も 事 業 実 施 の 最 終 年 度 を 迎 え 大 き な 事 業 と し て は 処 理 能 力 一 万 俵 の ラ イ ス セ ン 事 に 決 定 し、二、四〇〇万 円 で 建 設 が 始 っ て お り ま す。こ れ に 附 帯 す る 中 型 コ ン バ イ ン 二 台 は 村 で 購 入 し、バ イ ン ダー や 小 型 コ ン バ イ ン は 今 井 生 産 組 合 で 購 入 す る 予 定 に な っ て お り、又 村 農 家 の 方 か ら 利 用 し て 戴 き たい と 思 い ま す。

◎ 教 育 に つ い て ◎
村 づ くり は 人 づ くり で あ る、と

は 誰 し も 承 知 し て お り ま す。こ れ が 為 め に 毎 年 多 額 の 予 算 が 施 設 内 容 充 実 の た め 投 入 さ れ て お る わ け で す。

本 年 度 は 特 に 施 設 内 容 に 於 て 一 番 努 め っ て い る 理 科 教 育 に 力 を 入 れ る 事 に な っ て お り ま す。そ の 一 環 と し て 瀧 東 中 学 校 に 理 科 特 別 教 室 を 新 設 し 併 せ て 全 学 校 の 理 科 セ ン タ ー と し て の 役 目 も 果 す と 致 し 五 月 上 旬 に 工 事 に 着 工 し 八 月 一 杯 で 完 成 す る 予 定 に な っ て お り ま す。又、指 導 機 関 で あ る 教 育 委 員 会 の よ り 充 実 を 計 る た め 港 町 と 広 域 教 委 の 発 足 を み た の も 總 て 教 育 の 向 上 に 資 す る た め で あ り ま す。

◎ 道 路 に つ い て ◎
旅 行 か ら 帰 っ て く る と 車 に 乗 っ て お っ て ガ タ ガ タ 道 に な る と 始 め て 村 に 帰 っ た 気 が す る よ、と よ く 聞 か れ ま す。交 通 量 の 激 し い 昨 今 県 道 が 舗 装 さ れ て い ない 事 は 毎 日 毎 日 が 公 言 に 悩 ま さ れ て い る 事 で あ り ま す。そ こ で 毎 年 道 路 改 良 を 実 施 し 早 く 舗 装 を 村 づ くり の 協 力 を 得 て お る わ け で す。仲 々 思 う に ま か せ ず 申 し 訳 け なく 思 っ て お り ま す。今 年 は 国、県 の 予 算 も 内 定 し 舗 装 個 所 は 次 の 所 が 実 施 さ れ る 予 定 で す。

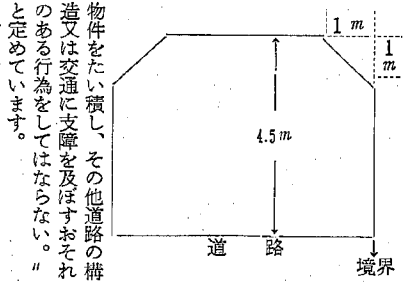
白 根、巻 巻、瀧 東 村 地 内 で 約 二、〇〇〇万 円 の 予 算 が 付 き ま し た の で 国、県 の 方 針 で 家 屋 進 担 地 区 から 舗 装 を 進 め る そ う で す。月 瀧、西 川 線、井 地 地 内 の 保 育 所 前 が 今 年 か ら 着 工 に な り ま す。島 方 地 内 は 昨 年 の 継 続 で 教 員 住 宅 の 方 に 延 長 さ れ ま す。横 戸、水 沢 地 内 も 西 小 学 校 前 か ら 上 流 に 向 っ て 舗 装 さ れ る 予 定 で す。白 根、西 川 線 も 遠 藤 地 内 が 継 続 に な り 横 戸 三 叉 路 か ら 遠 藤 地 内 ま で の 間 は 本 年 度 中 に 是 非 接 続 し て も ら う 様、強 く 要 望 致 し て お り ま す。村 の 方 は 本 年 度 議 会 の 議 決 を 得 て 既 に グ レ ー だ ー を 購 入 し 村 道 の 整 備 に あ た っ て お り ま す。特 に 本 年 度 か ら 村 道 の 舗 装 も 行 な う 事 と 致 し 議 会 と 協 議 の 結 果 本 年 度 は 「五ノ上 地 区」、「卯八郎 受 地 区」、「遠 藤 地 区」、「国 見 地 区」の 四 ヶ 所 を 決 定 し、来 年 度 も 継 続 し て 工 事 が 進 行 す る こ と に な っ て お り ま す。農 免 道 路 も 本 年 度 で 完 工 の 予 定 で あ り、村 道 も 県 道 同 様 こ れ が 整 備 改 良 に つ と め て ま い り た い と 存 じ ま す。生 活 環 境 の 整 備、其 の 他 申 し 上 げ た い 事 は た く さ ん あ り ま す が、紙 面 の 都 合 上 い つ れ か の 機 会 に 割 愛 さ せ て 戴 き ま す。

区 から 舗 装 を 進 め る そ う で す。月 瀧、西 川 線、井 地 地 内 の 保 育 所 前 が 今 年 か ら 着 工 に な り ま す。島 方 地 内 は 昨 年 の 継 続 で 教 員 住 宅 の 方 に 延 長 さ れ ま す。横 戸、水 沢 地 内 も 西 小 学 校 前 か ら 上 流 に 向 っ て 舗 装 さ れ る 予 定 で す。白 根、西 川 線 も 遠 藤 地 内 が 継 続 に な り 横 戸 三 叉 路 か ら 遠 藤 地 内 ま で の 間 は 本 年 度 中 に 是 非 接 続 し て も ら う 様、強 く 要 望 致 し て お り ま す。村 の 方 は 本 年 度 議 会 の 議 決 を 得 て 既 に グ レ ー だ ー を 購 入 し 村 道 の 整 備 に あ た っ て お り ま す。特 に 本 年 度 か ら 村 道 の 舗 装 も 行 な う 事 と 致 し 議 会 と 協 議 の 結 果 本 年 度 は 「五ノ上 地 区」、「卯八郎 受 地 区」、「遠 藤 地 区」、「国 見 地 区」の 四 ヶ 所 を 決 定 し、来 年 度 も 継 続 し て 工 事 が 進 行 す る こ と に な っ て お り ま す。農 免 道 路 も 本 年 度 で 完 工 の 予 定 で あ り、村 道 も 県 道 同 様 こ れ が 整 備 改 良 に つ と め て ま い り た い と 存 じ ま す。生 活 環 境 の 整 備、其 の 他 申 し 上 げ た い 事 は た く さ ん あ り ま す が、紙 面 の 都 合 上 い つ れ か の 機 会 に 割 愛 さ せ て 戴 き ま す。

道 路 に せ り 出 し て い る 樹 木、竹 等 を 整 理 し て 下 さ い

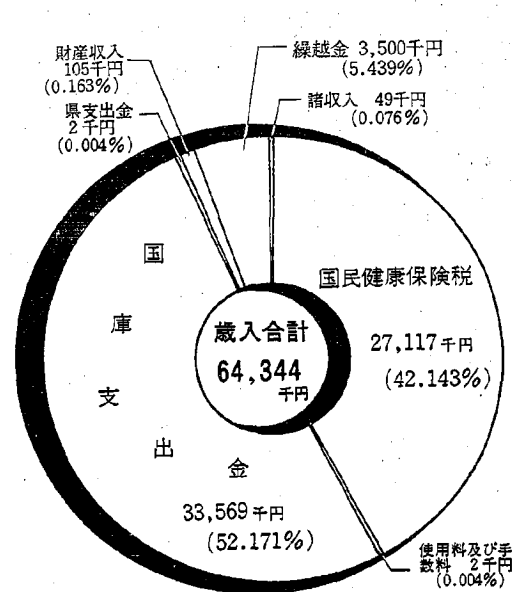
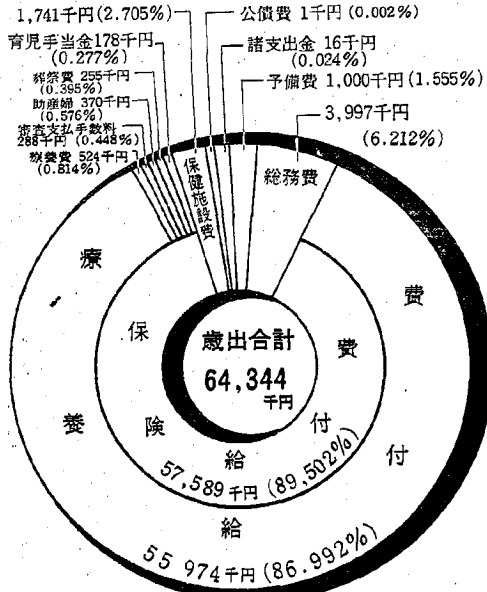
経 済 土 木 課

県 道 沿 い に 土 地 を 有 す る 方 に お 願 い が、道 路 沿 い の 樹 木 や 竹 などが、道 路 の 上 ま で 出 て い ない か 点 検 し て 下 さ い。道 路 法 で は、下 図 の よ う に 定 め ら れ て い ま す の で、こ れ を 超 え て い る 場 合 は 早 急 に 伐 採 す る な ど し て 整 理 し て 下 さ い。ま た 道 路 法 で は、み だ り に 道 路 に 土 石、竹 木 等 の



軽 自 動 車 の 廃 車、移 動 は そ の 日 の うち に 申 告 を

軽 自 動 車 (原 動 機 付 自 転 車、農 耕 用 を 廃 車 し た 場 合 は 必 ず そ の 日 の うち に 標 識 を も っ て きて 廃 車 申 請 を し て く だ さ い。所 有 者 の 移 動 の 場 合 も 申 告 が 必 要 で す。課 税 さ れ る 期 日 は 四 月 一 日 現 在 で す が、四 十 三 年 度 より 年 度 の 途 中 で 取 得 さ れ る 月 割 に よ る 課 税 を さ れ ま せ ン が、廃 車 の 場 合 も 月 割 に よ る 還 付 も ない こ と に な り ま し た。陸 運 事 務 所 より 標 識 の 交 付 を 受 け る 軽 自 動 車 に つ い て は 従 前 と お り 月 割 課 税 の 方 法 で 課 税 さ れ ま す。



昭和四十四年度
国民健康保険特別会計予算

昭和四十四年度 国民健康保険 特別会計予算

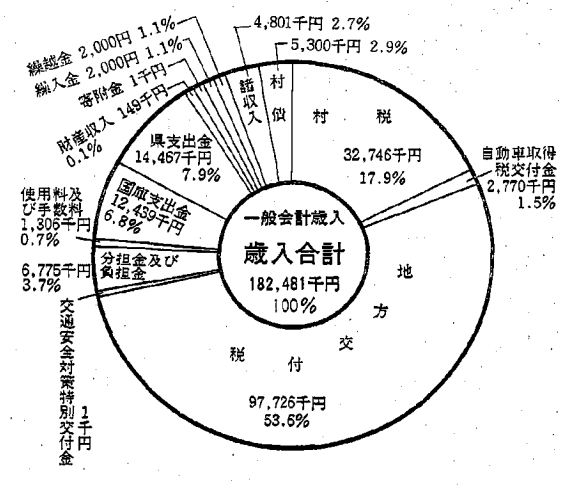
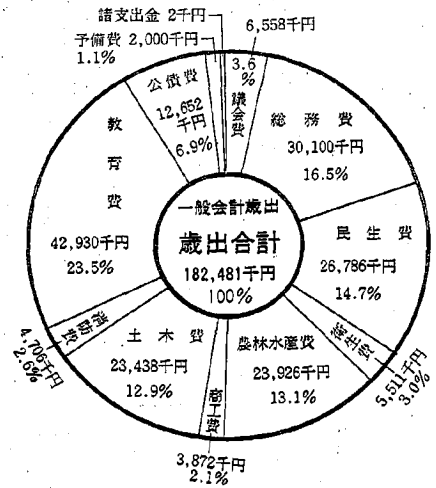
昭和四十四年度の国民健康保険特別会計の予算規模は歳入歳出とも六四、三四四千円と決定し、前年度当初予算より三、四九千円の増加となっております。

歳入を見ますと、国民健康保険税一七、二七千円、使用料二千円、国庫支出金三三、五六九千円、県支出金二千円、財産収入一〇、五五千円、繰越金三、五〇千円、諸収入四九千円となっております。

歳出を見ますと、総務費三、九七千円、保険給付費五七、八九千円(医者等への支払五八、七八千円、助産費三七〇千円、葬祭費二五五千円、育児手当金一七、八千円)、保健施設費一七、四一六千円、公債費一〇、〇〇千円となっております。

国民健康保険の主な改正は保険税の総額は据置きとし、被保険者の出生及び死亡の場合五、〇〇〇円、出産育児一時金一ヶ月四〇〇〇円が六ヶ月間支給に金額が改正になりました。

皆さんで正しく医者にかかり早く病気を直しましょう。



昭和四十四年度一般会計予算

自五月十一日 至五月二十日 十日間 春の全国交通安全運動です

飲酒運転は絶対やめましょう

昭和四十四年度 湯東村一般会計予算

三月定例村議会において別表のとおり一般会計予算が承認されましたのでお知らせいたします。

本年度予算額 一八二、四八一千円

前年度予算額 一六〇、七二五千円

比較 二二、七五六千円増であります。

歳入財源内訳をみますと、特定財源 四四、六七六千円

一般財源 一三七、八〇五千円

総額 一八二、四八一千円

歳出については歳入合計と同じでありますが大分類してみますと、

經常的経費 八七、二四二千円

投資的経費 七五、三〇五千円

その他経費 一九、九三四千円

総額 一八二、四八一千円

村税納入一〇〇%まであと一歩

正直者がバカをみないよう、悪質滞納には差し押さへも

村税の納税成績は納税者のみなさんのご理解と関係者のご協力により年々向上し、昭和四十三年度村税については一歩で一〇〇%に達しますが、若干の未納者があることには残念なことであります。未納者にはそれぞれの事情があると思われませんが、何となくも完納まで努力してもらわねばなりません。とくに五月は会計の総整理をする月であります。滞納税金の一掃をめざして悪質滞納に対しては強制執行を執行する方針であります。

月末までどうしても完納できない場合は分納等の納税相談にも応じますので税務課まで申し出て下さい。納税完納の明るい村づくりであります。

「福祉年金を受けている皆さんへ」

このしも福祉年金を受けている方から「所得状況届」をだしていただく時期がきました。いままでの届出を役場の国民年金係でうけていますから国民年金証書と印鑑を持っておでかけください。

なお恩給とか遺族年金とか公務扶助料、厚生年金などを受けておられる方は、その証書又は保管証書をもつしよにもってきてください。この届はことしの五月分からは来年度四月分までのあなたの福祉年金を定める大切な届ですから、おそくとも六月十日までにかからず届け出してください。また、この届を出さないと、せつかくの年金を受けることができなくなる場合がありますから、はやめに届け出するようにしてください。

「加入を忘れていませんか、国民年金」

国民年金は、農業や自営業の人々に官庁や会社工場に勤めている人々と同じように公的な年金制度による所得保障を行ない、年々増えつつある生活の安定を、国と被保険者(加入者)が共同で守ろうという趣旨で昭和三十六年四月から(三ページへつづく)

今年度も納税にご協力を

督促手数料20円に

村税を滞納した場合、従来は督促手数料が一件十円でしたが、四月一日以後賦課された税金について滞納された場合の督促手数料は二十円になりました。

固定資産税第一期、軽自動車税全期分の納入期限は四月末日でしたが、まだ納税していない方は督促状のでないうちに納入してください。

確定申告が間違っていたときの手續!

昭和四十三年分の所得税の確定申告は、三月十五日で終わりました。間違っていた方が、申告を正しく納税をすることをおすめします。これらの手續に必要用紙は税務課に用意してあります。

修正申告

確定申告の所得や税額が少なかつたり、還付を受ける税額が多かつたりの方は、なるべく早く申告して下さい。(調査を受けること五%の過少申告加算税がかかります。)

居住用財産の買換特例を受けたことが、その後居住用に供しないこととなった場合は、四月月以内に申告して下さい。

更正の請求

確定申告の税額が多すぎたり、還付を受ける税額が少なすぎたりは、五月十五日までに請求して下さい。譲渡所得のあった方で、申告後に居住用財産の買換の特例を受けられることとなった場合も四月月以内に申請して下さい。

期後申告

確定申告をしなければならぬ

交通災害共済に家族みんなで加入

最近県内での交通事故により死者傷者数は、年々増えつつあり、湯東村でも交通事故は、増加の一途をたどっています。交通災害共済組合が発足してから、わずか半年余りでしたが、湯東村だけで、この見舞金給付の対象となられた方が、五人もいらっしゃいました。年々増えつつある車、それに伴う交通事故、交通災害は人ごとではなくなっています。万一の事故に備え、交通災害共済に、家族全員で加入し、少しでも不安のない毎日をおくりましょう。四十三年度の共済期限が三月三十一日、切れます。目下、役場総務課で、継続、新規加入の申し込みを受け付けています。五月中の掛金は大人三百三十円、中学生以下二百七十五円です。詳しくは役場総務課へお問い合わせ下さい。

改 正 料 金 表 (月額)

用 途	基 本 料 金	超 過 料 金	メーター使用料	
家 事 用	10㎡迄 500円	1㎡当り 45円	口 径 使用料	
营 業 用	10㎡迄 550円	〃 45円	13% 30円	
官公署、学校用	10㎡迄 500円	〃 45円	20% 50円	
工 小 口	50㎡迄 2,200円	〃 40円	25% 100円	
			大 口	300㎡迄 12,100円
業 用	500㎡迄 16,500円	〃 35円	50% 700円	
			特 殊	10㎡迄 1,000円
臨時・娯楽用	10㎡迄	〃	1,000円	
共 用 栓	一世帯につき 使用水量10㎡迄	450円	〃 40円	100% 1,500円

水道料金なんて安いものさ「床やに行っても四百円もかかるし、煙草を吸っても月に千円では済まないよ。子供のおやつでも一日十五円や二十円はいる」と言う話しもあれば、逆に「水道企業団の料金は近隣の市町村より高いとか、日本一に高いとか、簡易水道は二百円位だ」と言う声も聞く。一体どちらの言うことが本当であり、

高い？ 安い？

水道料金

高いのか安いのかという疑問に対して、何とお答えしたらいいであろうか。
現在我が国の水道料金は全くまちまちであって、月二百円台から始まり八百円位までの開きがある。最大の理由は、

- 1 創設年度
- 2 企業債多少
- 3 事業の規模

4 減価償却費
5 給水区域の広狭

等々が料金を支配するから、各市町村毎に大きな開きのあるのが普通である。本企業団は近年の創設で広大な区域の上給水戸数は少なく、大量使用者もなく無一文での創業のため莫大な企業債を受けた、その元利償還が大きな負担である。一番悪い条件で他の水道と比較して割高である、だが年々好転はしているのである。単純に考えれば料金は安いにこしたことはない、ただなら一番いいが河の濁水を無菌の浄水にして各戸へ給水するために維持管理するための正当な原価と言うものが生じてくる。営利事業でないので、正当な原価に見合う

料金を使用者からいただくかなければ、経営は立つて行かないのである。こうした見地に立つて考えるならば、改定された料金が安くも安くもない最も適正な料金であると思う。これを他の水道や物価と比べてとやかくいうことは余り根拠のないことである。
法の適用を受けてからは独立採算とか、減価償却費と言ったものがあり、これを月々の料金の中に含めて積立てて施設が使えなくなつた際に一時金として、どかんまととめて捻出することなく長い間

新任のあいさつ

保健婦 五十嵐 吉子

やわらかい日ざしの中に若芽がふくらみ、大自然の春のいぶきが満身にせまってきます。田圃の光と空気の爽かさの中で村内の各家庭では現在、苗床作りに忙がし毎日を送っているようです。仕事の間のす暇にも自然のいぶきを感じることも多いこの頃でしょう。
四月一日より保健婦として勤務させていただきます、はや一週間を経過してしまいました。卒業したばかりで実際の活動経験はわずか実習で得た約一ヶ月半位であり、あとは机上の学習、暗野も、動きも、狭く小さい現在、暗野模索の毎日です。しかし赴任以來、役場の関係者はじめ村の方々には大変親切にしていただき知らない土地へ来たという不安な気持は現在どこかへ飛んでしまつたようです。勤務し二、三日経つた頃だと思ひます。通勤の際、道路の傍で仕事をやっていた十四、五人の人達がみたこともない変な女が違って行くと思

月々に分けて納めるようにして、弾力性のある安定経営を計った水道企業団は、中二口村と湯東村が共同して一ヶ所で業務を行なう公同団体で、役場と全く同じ性格のものであつてけつして営利を目的とする団体ではない。だが、その経営に無駄があるか無いかが問題である。これが合理的な経営が行なわれているとしたら、このために要する経営をつぐやに足るだけの料金は高い安いでなく、適正料金である。

つたのか50㎡位前から傍を通りすぎるまでじつと見えています。心臓は人より強いと思つていたがさすがにびびりし軽く会釈するのまじ下を向いて一刻も早く通りすぎようとおせつてしまいました。通り過ぎはつとしたのもつかの間、後味の悪い思いをしたことがあります。進んで話しかければ、話しかけられて答えない人はいないだろう。その時は時節のあいさつのみで終つたとしても二度目に会つた時は黙つて頭を下げた通るよりもっと気軽に何か別の話も聞けたかもしれない。また自分のほうも話しやすいだろう。なぞ足を止めて「私、新しく役場に来た保健婦の五十嵐ですよろしく」と進んで自分をPRしなかつたのかどう後悔しています。私達の仕事の何一つを行なうにしても地域の人達の協力がなければ何一つ達成することができないといつても過言ではないと思ひます。公衆衛生活動は

保健婦はもちろん医師だけ、衛生係だけ、また地域の人だけというように個々でやつてもその活動は推進しません、またしたとしてもそれには限界があるうと思ひます。地区の人々と共に考え地区の人々に密着した身近なことから解決に立ち上がるような方向づけこそ私達が毎日の仕事をなしている中ではないかと思ひます。それにはどんな方法をとりなればならないのかを正しく見極める力を今後の保健婦業務を遂行してゆく中で獲つてゆきたいと思つています。
誕生日を迎える前の日あと24時間!! あつ一秒がすぎたもうたいたいうんとしゃべつておこううんと歌つておこうまた一秒がすぎる、時間よ止まってしまえ、明日からは○才になるんです。でも昨日とちつとも変わっていません。このようにとても愛せわしき思つたものですとり閉じこもつて考えるよりは、どこかの壁を叩いてみるべきだと課長はじめ先輩の保健婦から時あるごとに云われています。ちゅうちゅうなく壁を叩けるように努力したいと思つています。健康という一つの目標に向かい、また職業人として働いていくために新しい決意と健康の重大さを再認識し心をひきしめずにはいられません。
今後ともよろしく御指導をお願い致します。

たばこは 村内から 買いましょう

たばこは 村内から 買いましょう